

令和7年1月 経営協議会（対面・オンライン併用）議事録

I. 日 時 令和7年1月16日（木） 14時00分～16時07分

II. 出席者 横手学長、岩田、香藤、河田、草開、黒木、塩尻、渋沢、島田、銭谷、西堀、舩橋、森島、中谷、後藤、藤江、小澤、丸山、堀、岩崎、小林、伊藤、三木、大鳥、諏訪各委員

オブザーバー 大井、山本各監事
（欠席者：正宗、宮坂各委員）

※下線はオンライン出席

III. 9月、11月経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

IV. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正について

丸山理事から、国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

V. 協議事項

1. 留学生の受入及び学生の留学に関する分析・戦略の現状と今後について

小澤理事から、留学生の受入及び学生の留学に関する分析・戦略の現状と今後について、資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり。

◎ 留学生受入アンケート結果で、大学院生を増やしたいという希望が強かったことは、真っ当な見方だと思う。大学院の留学生数が多い大学ほど人気のある大学という印象を持っている。大学として、グローバル化にあった研究・教育の提供ができるということを示すことが更に大事になっており、何よりも強い大学、良い大学にすることが一番大事なことはないかと感じた。

○ 千葉大学の特徴的な研究分野を勉強しに来てもらい、研究と教育を一緒に考えながら、リクルートしていくことが大変重要だと考えている。また、その観点から言えば、研究力の強化が大学院生を引き付ける一つの大きな柱なのではないかと考えている。

◎ 千葉大学は2020年4月に全員留学を実施するという大義名分のもとで、授業料を値上げしたが、それはどうなっているのか。

○ 授業料値上げ分は、ENGINE（千葉大学グローバル人材育成）の3つの柱である①全員留学、②ネイティブ教員の増員等による教育改革、③スマートラーニングの体制整備に活用しており、安定的に授業料を得ることで教育資源として利用できている。

- ◎ 資料2-2で長期留学の課題として経済的支援の充実が挙げられており、具体的方策として千葉大学基金の活用とあるが、この基金はどのぐらいの規模で、どのような性質のものか。また、奨学金を優秀な学生に支給して留学する学生を増やすことが非常に大事だと思う。一般的な予算の中ではなく、例えば、留学する学生を増やす名目で寄付を募る等は考えていないのか。
- 基金の規模全体はある程度の額があるが、学生支援に関するものは毎年2千万円程で、そのうち留学等に使用される額はあまり多くないと思う。海外の大学ではエンダウメントファンドが圧倒的な規模であり、留学する学生へ積極的に支援しているが、日本の規模は非常に小さく、課題となっている。留学する学生へ支援できるように、基金の運用手段の見直し等も含めて検討しながらお金を集めていきたいと考えている。
- ◎ 多くの留学生受入や共同研究により、安全保障に関わる技術等が流出してしまうリスクがあるかと思う。千葉大学は安全保障に関わる内規等で流出防止の仕組みが整備されているのか。
- 留学生を受け入れる場合、その大学の状況等の様々な情報を集めて確認しており、懸念がある場合は研究室に必要な対応をとってもらっている。また、共同研究等においても、その会社の状況をできる限り調査し、その結果に基づいて契約の締結及び然るべき対応をとることで、技術等の流出をできるだけ防いでいる。我々としては様々な調査により、リスクを減らしながら交流してもらおうといった方針をとっている。
- ◎ 事務手続きは非常に煩雑であり、教員がすべて行っていたら限界がある。事務手続きに関して、千葉大学の学生や留学中の学生によるヘルプ組織のようなものがあると非常に良いと思った。
- 現在、研究や留学等に関してどの部分を外からサポートできるか、内製化あるいは外部委託を含め、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業とも関連して検討を始めている。次年度に向けて実行に移せるよう準備していきたいと考えている。
- ◎ 全員留学や外国人留学生の受入数年間3千人という目標に向かって進めてきたと思うが、各学生のニーズを把握し、本人に一番合う留学をコンサルできることが大事である。そのようなコンサル体制は、どの程度進められているのか。また、留学が終わった後の満足度調査の実施、結果等はどうか。
- 全学プログラムについては新たにサイトを立ち上げて、常に学生が地域・期間や留学内容等を検索できる体制を作った。加えて、学習支援の専門職であるSULAがいるところは、SULAが各学生の相談にのる体制となっており、国際教養学部では留学経験を持つStudent SULAが、日常的に下級生の相談に応じるピアサポートという仕組みを導入している。また、意識満足度調査、学生及び協定校の受入の先生方に対してアンケートを実施しており、3月頃にその結果がでた段階で皆様に共有させていただきたい。
- ◎ 私の所属するロータリークラブでも奨学金を給付しており、十数年前は外国人留学生や留学する千葉大学生への給付が多かったが、ここ数年は減少している。この傾向につ

いて、学生のニーズに合っていないのか現況を伺いたい。また、大学院生が留学する場合、取得単位数やカリキュラム等に変化はあるのか。

- JASSO の奨学金や留学受入先が出してくれるもの等があり、現在、留学生課を中心にスカラシップ関係について、データベースを形成して、学生が選択可能なかたちとなっている。単位については、基本的に海外で修得した単位を認定する仕組みを千葉大学は持っており、海外でしっかり単位を取ってくれば、単位認定可能である。
- ◎ かつて国立大学の教員は在外研修制度があったが、現在千葉大学はどうなっているのか。また、全員留学に関して先駆的な大学である国際教養大学は、世界各地の大学と協定を結び、事務手続きがスムーズになっているようだが、千葉大学の場合、協定校はどうなっているのか。
- 千葉大学ではサバティカル研修制度を全学的に整備しており、若手教員を中心にサバティカル研修の権利がある教員については、積極的に申請を認める方針である。全学プログラムについては、相手側はほぼ協定校であり、約50か国に500校ほどの協定校がある。協定校とは有償でENGINEの中にプログラムを組んでいる。また、外部の留学斡旋機関にも一部プログラムを作ってもらっている。

2. 千葉大学の飛び入学について

小澤理事及び加納先進科学センター長から、千葉大学の飛び入学について、資料に基づき説明があった。

3. 千葉大学ビジョンについて

横手学長から、千葉大学ビジョンについて、資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。併せて、忌憚のないご意見及びお気づきの点等を改めてお寄せいただきたい旨、発言があった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 共創力の対義語が競争力であるが、資料4に「大学が有するリソースを最大限に活用し、国際競争力を高めていく。」とある。競争力も非常に大事だが、『共に創る』を強調しているようなので、突然、競争力が出てくるのは少し違和感がある。
- ◎ 学内役員の方々に議論し、ビジョンのたたき台を作成したとのことだが、今後どのようなかたちで作業を進めていくのか。また、最終的に千葉大学のビジョンとしてホームページに掲載すると思うが、そのスケジュールを教えてください。
- 学外委員のご意見をいただいた上で、経営戦略会議にて執行部で議論し、そして、教育研究評議会にて部局長と意見交換したのち、まとめたものを経営協議会に提示して、4月以降に活用できるようなかたちにしたいといったプロセスを考えている。

VI. 報告事項

1. 令和7年度予算案について

丸山理事から、令和7年度予算案について、資料に基づき報告があった。

2. 医学部附属病院の運営状況について

大鳥副学長から、医学部附属病院の運営状況について、資料に基づき報告があった。併せて、医学部附属病院に関する SNS 事案について、現在調査中であり、患者等に影響を及ぼさぬよう対応したい旨、報告があった。

3. 令和 7 年度経営協議会開催日程について

宮近企画部長から、令和 7 年度経営協議会開催日程について、資料に基づき報告があった。

以 上